

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ヴィラおたつめたつ
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	鹿児島県中種子町納官5173
記入者名 （管理者）	福元久和
記入日	平成 19 年 8 月 10 日

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを 支えていくサービスとして、事業所独自の理念 をつくりあげている	朝のミーティングの中で唱和している。毎月の会 議の中でも話している。	○	今後も実践に向けて努力していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいたケアが提供出来るように努めてい る。	○	利用者一人ひとりに寄り添う支援に努め ていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に 理解してもらえよう取り組んでいる	老人会の催しや地域の行事に参加し、ヴィラへの 認識と理解が得られるよう取り組んでいる。	○	全員の参加は無理だが1人でも参加でき るよう支援を続けたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ 合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような 日常的なつきあいができるように努めている	玄関はいつも開放しており、お客様を迎えやすく している。家族・地域・行政を交えた食事会を実 施している。	○	家族・地域の方と利用者が日常的に話せ る機会を増やしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加 し、地元の人々と交流することに努めている	福祉祭り出演、家族会・地域交流・小学校の運動 会への参加等交流を図っている。	○	今後も続けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設見学や研修の受入は適宜行っている。認知症についての相談、介護実習も申し出があれば受け入れている。	○	関係機関や団体に働きかけ情報を得るようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、事業所のサービスの質の向上につながるよう改善に活かしている。	○	各種研修や地域の行事へは積極的に参加し、個々の技能を高めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状態・運営の状況を報告し、情報や意見を頂き、サービスの向上に努めている。	○	内容の充実に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不定期ではあるが、相談・指導を受け質の向上に努めている。	○	さらに密接な関係を築いていけるよう取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については会議等で話している。実際の活用はない。	○	町の社協等で研修を受ける機会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会等で虐待とはどういうものか話し合い、防止に努めている。	○	外部研修や勉強会等で共通理解をさらに深めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項については十分納得されるまで説明を行っている。	○ 退去後の支援や家族への連絡など出来る限り行っていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から何でも話せる雰囲気作りに努めている。利用者の意見は可能な限り受け入れるようにしている。	○ 会話の機会をこれまで以上に作りたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な通信で個々の状況については報告している。必要に応じ適宜通信や電話等で報告している。	○ 状況の報告は継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口に意見箱を設置している。日頃から面会時や交流会等で気軽に相談していただくように話している。	○ 家族との信頼関係をさらに深めるよう努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や介護に関する意見は何時でも話せるようにしている。	○ 今の雰囲気を継続し、深まるようにしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望があれば対応するようにしている。	○ 人員を必要とする行事や緊急時には対応できるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員に よる支援を受けられるように、異動や離職を必 要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利 用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職による補充はあるが、常に馴染みの職員が支 援している。引継も十分行い利用者への配慮はで きている。	○	利用者への負担がないように継続してい きたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成 するための計画をたて、法人内外の研修を受け る機会の確保や、働きながらトレーニングして いくことを進めている	各種研修会への参加、法人内での相互研修を実施 している。	○	研修会参加の機会を多く持ち、個々の技 能を高めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交 流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強 会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質 を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの訪問・受入、意見交換をし ている。	○	今後も継続し、他職種の事業所でも研修 できる機会をつくりたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減す るための工夫や環境づくりに取り組んでいる	悩みを抱え込まないように話し合う場をつくっ ている。食事会等も行っている。	○	職員相互の人間関係を大事にし、楽しく 安心して働けるようにしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働 けるように努めている	職員それぞれ、担当の係を持ち個々の力を発揮出 来るようにしている。	○	得意分野を仕事に生かせるようにしてい きたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っている こと、不安なこと、求めていること等を本人自 身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力 をしている	生活歴、健康状態を聴き、これまでの生活と変わ らない生活を支援できるよう努めている。	○	聴き取りが困難な方は、家族に聴き、こ れまでの生活を維持できるようにしてい きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の不安・困り事等十分把握し、援助できるよう努めている。	○	多くの情報を受入、支援することで信頼関係を築いていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の面談に時間をかけ、ニーズに対応できるように努めている。	○	目配り・気配り・心配りのできる対応をしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	大きな町ではないので、何らかの形で職員や利用者は顔馴染みの方が多い。早く生活のリズムができるように支援している。	○	今の状態を継続し、安心していただくように対応していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の催しや行事・風習、若いときの話をさせていただく。食事の味見や野菜・花園の手入れ等アドバイスしていただいている。	○	今後続けていきたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況は常に家族に報告し意見を聞いている。共に共感できる関係づくりに努めている。	○	意見交換の機会を多く持ち、安心していただけるように努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会・外出・外泊等、何時でも出来る体制をつくり、利用者と家族が関われるようにしている。	○	利用者と家族が良い関係を保つよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ・外出・外泊等、施設以外の方々との関わりを継続できるよう努めている。	○	今後も続けていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	昔からの知り合いの方が多く、互いに声を掛け合う場面が多い。職員も間に入り良い関係が保てるよう努めている。	○	必要に応じ職員が声掛けし、良い関係が保てるようにしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特養入所・長期入院で契約修了者がおり、機会があれば職員が面会に行っている。	○	今後も関係を保つようにしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を尊重し、それに添った生活が送れるよう支援している。困難な方には体調に合わせた支援を行うよう努めている。	○	その人らしい生活を支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、担当ケアマネを通して生活歴、他のサービスの利用状況等確認し、家族へも尋ねるよう努めている。	○	自宅には度々訪問し、近況報告等おこなっている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活パターンを把握し、無理強いすることなく、一日を本人のペースで生活する事を尊重している。	○	心身の状態、残存機能を把握し、その人らしい生活が送れるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聴き、出来ることを見極め、職員の意見を反映させた計画を作成している。	○	続けていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に変化が生じた場合は、新たに計画に取り込んでいる。	○	個々の状況を観察し、変化に即した計画を作成していきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は変化や状況が具体的に分かるよう記録し、個別にファイルしている。	○	記録を介護計画の見直しに活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・外泊・外出・墓参り等、要望に応じ適宜対応している。	○	今後も続けていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の駐在所には、グループホームのことを理解していただき、時々立ち寄ってもらっている。同法人の学園・デイとの交流、小学校との交流もある。	○	交流の内容を充実させていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣接する同法人のデイサービスに参加している。	○	これからも続けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員として指導等頂いている。	○	今後も利用者の方のために、地域包括支援センターのし指導を受け、何が出来るか検討していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用されている医療機関を継続している。主治医との関係を築き、適切な医療が受けられるように努めている。	○	継続して、適切な医療が受けられるように支援していきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医・脳外科医の指示、助言を頂いている。	○	主治医と相談し、診察や治療をうけ、症状の進行防止に努めていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の観察、健康管理は相談しながら支援している。	○	健康で安心した生活が送れるよう支援していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	寝たきり防止のため、早期の離床や回復を話し合う等、情報交換や相談に努めている。	○	入院期間を短くするためには、日常生活の観察をこまめにしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を尊重し、医療機関と連携を取るよう努めている。	○	本人・家族の意向を受入、共に共有できるよう努めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や急変に対応できるよう医療機関と連携を取るよう努めている。	○	ホームで出来ることについて、家族に理解していただき、急変に備え検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	情報の提供を十分行うよう努めている。	○	出来る限り現在の環境を維持できるよう 支援していきたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	利用者は人生の大先輩であること、生きてこられ た歴史等を念頭におき、誇りやプライドを損ねな いよう心がけている。	○	誇りやプライドを尊重した支援をしてい きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり 、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	本人の意向を確認するよう、その人に合った聴き 方に努めている。説明も個々に合った早さや声の 大きさで行うようにしている。	○	自己決定の出来ない方への支援を職員で 相談しながら行っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	理念に基づいて、一人ひとりが主役になるよう 、その人のペースで生活出来るよう支援している。	○	体調に合わせた支援をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行 けるように努めている	服装は自分で選べる方には、選んで頂いている。 ボランティアの美容師さんの協力でカットして いる。パーマ・髪染めは家族と美容室に行くよ うにしている。外出・行事の特等女性の方は化粧も している	○	季節や場面に相応しい服装ができるよう 支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い、個々に応じた食べやすい形 状、使い慣れた食器でゆっくり食べていただくよ うにしている。	○	おやつ等一緒に作る機会が持てるよう にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶・麦茶・ポカリ、冬場は紅茶・コーヒー、祭りの時等にアルコールを飲める方は楽しんでいる。	○	食べたい・飲みたいものの希望があれば準備していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。便秘にならないように食材の工夫、水分を多目にしている。	○	便意の意思表示が出来ない方のパターンの把握と誘導を支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックを確認し、本人の（顔色・食欲・気持ち等）状態を見ながら、入っている。体調の悪い方、拒否された方は清拭・更衣を行っている。	○	状態の確認をしながら、支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居間・ホールにソファを置き休めるようにしている。日中の活動を促し一日のリズムを整えるように支援している。	○	本来のリズムで生活出来るよう支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の得意とすること、出来ることをしていただく機会をつくり、生き生きとした生活が送れるよう支援している。	○	本人の得意とすることを引き出し、自信を持って頂けるよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	計算能力の低下に伴い管理が出来ない方が多い。事務所で全員分管理している。	○	買い物の機会をつくり支払の場面を支援できるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの その日の希望にそって、戸外に出かけられるよ う支援している	ドライブや散歩に出るようにしている。	○	体調を確認しながら、屋外に出る機会を 増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないと ころに、個別あるいは他の利用者や家族ととも に出かけられる機会をつくり、支援している	希望があれば可能な限り対応している。季節に応 じドライブの場所の工夫をしている。	○	家族合同の遠足等実施出来るように支援 したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、 手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも電話出来るようにしている。通信発送時 に名前の添え書きをされる方もいる。	○	ハガキ等準備し、書いていただくように 支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たち が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ご せるよう工夫している	家族は何時でも宿泊出来るようになっている。全 職員で気軽に訪問できる雰囲気作りに努めてい る。	○	家族や親戚の方、地域の方、運営推進委 員の方に、何時でも来ていただけるよう に声掛けをしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基 準における禁止の対象となる具体的な行為」を 正しく理解しており、身体拘束をしないケアに 取り組んでいる	月の会議の中で、身体拘束とはどういうものか具 体例を挙げて話し合い、拘束のないケアに取り組 んでいる。	○	人権擁護のうえからも拘束をしないケア に努めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に 鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をか けないケアに取り組んでいる	6：30～20：00は玄関は開放している。見 守りをしながら散歩等行っている。面会等あれば 柔軟に対応している。玄関には観葉植物を置いて いる。	○	自宅と同じ要に支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全 に配慮している	見守り、職員相互の連絡を密にし、安全には十分 配慮している。	○	今後も継続して、安全管理には十分配慮 していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではな く、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取 組みをしている	薬は事務室で保管。包丁はE勤の退社時に事務室 へ保管。他の物については、それぞれ所定の場所 にある。	○	安全に配慮し支援していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた 事故防止に取り組んでいる	個々の疾病や日々の状態を把握し、起こり得る事 故を予測して事故防止に努めている。	○	緊急処置等の知識・技術を学んでいきた い。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職 員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っ ている	看護師が2人いて対応している。勉強会も行っ ているが全職員が対応できるところまでない。	○	継続して勉強会や消防職員の指導を受け ていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わ ず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろ より地域の人々の協力を得られるよう働きかけ ている	避難訓練を実施。近隣の方への協力も依頼してい る。	○	訓練を重ねていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族 等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした 対応策を話し合っている	利用者の状態の変化は常に家族へ連絡を入れ対応 を話し合っている。	○	継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化は看護職員と相談し、速やかに対応して家族へも報告している。	○ 協力病院と連携を取り、重度化しないように支援していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や飲み合わせの作用について、いつでも見れるようにファイルしている。	○ 薬の変更等あれば、申し送りノート・口頭で確認出来るようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事・水分・運動で自然排泄に取り組んでいるが難しい、薬による排便も行っている。	○ 薬に頼らないよう心がけていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時・就寝前にケアを行っている。毎食後はお茶による、うがいをするように努めている。	○ 同法人の歯科衛生士の指導を受け、口腔清潔を保つよう支援していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養・水分不足にならないよう十分観察を行っている。摂取量の少ない方には、おやつ（栄養補助食品含む）で補給できるようにしている。	○ 調理の工夫も行い、継続していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染に対するマニュアルを作成しており、発生が疑われる場合は実行している。インフルエンザ予防接種も実施している。	○ 常に危機感を持ち、速やかに対応できるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台 所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全 な食材の使用と管理に努めている	毎朝、その日の食材は業者より搬入してもらって いる。調理用具はハイター消毒等必要な衛生管理 をおこなっている。手洗いの励行に努めている。	○	継続して衛生管理に努めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者が家族、近隣の人等にとって親しみや すく、安心して出入りができるように、玄関や 建物周囲の工夫をしている	季節の花を植え、親しみやすい雰囲気作りを心が けている。玄関は常時開放し、お客様が何時でも 来苑できるように努めている。	○	季節の花や観葉植物が、いつもある玄関 にしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快 な音や光がないように配慮し、生活感や季節感 を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫 をしている	季節感を感じさせる飾り付けを工夫している。	○	落ち着いて、居心地の良い生活空間にし ていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせるような 居場所の工夫をしている	利用者同士が居室の行き来や居間でテレビ鑑賞、 ホールのソファで談笑出来る場を設けている。	○	好きなときにお茶を飲みになれる場・環 境を作っていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と 相談しながら、使い慣れたものや好みのものを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	自宅で使用していた物を持ってきていただき、配 置も本人が決め、居心地良く生活できるよう工夫 している。	○	本人にとって使い勝手の良い居室になる よう支援していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上のよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がな いよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに 行っている	こまめに喚気している。エアコン設置者の居室で は温度調節を職員が行い、体調に応じた適度な温 度になっている。	○	建物全体の換気も十分行い、除湿・保温 等配慮した支援をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベット使用の方、布団使用の方とそれぞれの状態に合わせて工夫している。手摺りは居室・ホール・居室前・トイレに設置し、安全確保と自立への配慮がなされている。	○ 利用者方が使いやすいよう、工夫していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	得意な分野を活かし、日常生活の中で出来ることはしていただき、必要な部分は援助している。	○ 自立した生活の幅が広がるよう支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでの談笑（季節により）や外回りの散歩、ゲート場・デイへの散歩を楽しめるようにしている。	○ 外出の機会を増やしていきたい

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目			回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①

項 目			回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	①
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族・地域・行政・運営推進委員・職員が交流会や食事会、研修会等を通じて情報の交換・親睦を深めている。利用者は、大舞台の中で歌や手踊りを披露する機会があり、他施設・地域・同法人の学園・デイサービス利用者・ヘルパー利用者の方々とのつながりの中、多くの人と関わりを持つようになっている。